

地域銀行の営業地盤と収益性の分析

関西外国語大学 堀江 康熙

本報告は、地域銀行に関して営業活動の側面から分析することを目指したものである。こうした側面からの分析に際しては、地域銀行の営業活動には営業店舗を構えて活動を行っている地域の経済活動状況、換言すれば「営業地盤」ないし「地域性」の影響を強く受けると考えられることに留意すべきである。

地域性の影響を受ける金融機関は、一般に銀行と比べ営業活動区域がかなり狭い信金等の協同組織金融機関に限られる訳ではない。地域銀行（地銀・第二地銀）の場合、信金等と比べれば経済活動の活発な地域への進出・重点の転換が相対的に容易である。しかし、当該地域は競合先も多いだけに、顧客との取引深耕を通じて自らの営業地盤として取り込んでいくには相当の時間を要すると予想される。その限りでは、それまで営業地盤としてきた地域内に於ける経済活動の影響を強く受ける状態が長く続くと考えられる。

他方、地域銀行の収益力ないし収益性に関しては、現実の金融活動に即した指標を選択する必要がある。地域銀行の活動範囲は信金等と比べて広く、収益構造もやや異なっており、別途定義することが必要となる。本報告は、こうした点を考慮して作成した収益力指標と、営業地盤の変化との関係を検討する。

まず、これまでの地域金融ないし地域性に関する先行研究の流れを概観し、その特徴および問題点を捉える。それを踏まえて、地銀・第二地銀について店舗配置を基準として各種経済指標を加重合計した指標を営業地盤の代理変数とし、それを基に5つのグループに分類する。このようにグループ化してみると、同じ業態でも営業地盤には相当の相違があり、先行研究で主として行われてきた業態別の分析には問題があることを示す。また、先行研究では、地域の経済活動を表す指標として地域銀行が本拠を構える都道府県の計数を使用する例が殆どであったが、そうした指標は地域銀行の行動との関係が弱く、問題が多いことも併せて示す。次に、近年の営業地盤の変化を2000年代の初期時点と比較して、そうした変化が収益性に及ぼす影響を検討し、対応が必要とみられる銀行グループがあることを指摘する。そして、収益力測定の対象となる投入・産出物を金融機関の活動に即して定義し、それをを用いて営業地盤変化と収益力変化との関係を検討する。

分析の結果として、地方の都市に地盤を置く地域銀行とくに第二地銀は、営業地盤の悪化から合併や他行の資本参加を余儀なくされる先が多く、今後そうした対応に迫られる可能性が大きい銀行も多いことを示す。